



夕方からはなんともいえない風情を醸す燈台。福井神社の参道として用かれた燈籠、江戸中期に築かれた福井藩の藩政時代の石垣に設置。現在の灯は、平成12(2000)年に設置された。



復元された福井藩の藩門「食人門」と福井市立郷土歴史博物館。周辺一帯は福井市公園「福井藩史の歴史ゾーン」と名称けられた。

ゆかり旅 福井市の新名所

足羽山から名勝・善徳館歴史的市街地へ移転した福井市立郷土歴史博物館。敷地内には福井藩の遺構、食人門を復元するなど、周辺一帯を歴史ゾーンとして整備。今春のオープン以来、県内外から多くの人が訪れ、福井市の新名所となっている。

まずは食人門へ。周囲には、外堀の一部や石垣も復元。食人門は福井城の北方を守り門だという。外堀までを含めた福井城の全容からす

れば、先ほど見た福井城跡はほんの一部であったことを実感する。実はこの門が建っている地面は、周囲より1メートルくらい低い。これは江戸時代終わりの地面の高さを忠実に再現したもの。実際立ってみると、不思議な感じがする。

次に善徳館庭園を訪ねた。かつては御殿水屋敷と呼ばれていた福井藩主松平家の別邸で、広大な園池を中心とした回遊式林泉庭園と数寄屋風茶室をそなえている。水のある庭園の風景はどこから見ても美しい。

新緑を感じる 坂のある光景

福井市街の歴史スポットといえは、必ず名前が挙がるのが足羽山。筋谷石の石段が風情のある愛宕坂を登った。

登り始めるとすぐ、右手には福井市愛宕茶室道楽館。左手には福井市福澤寛配記念文学館がある。近年これらの施設が整備され、愛宕坂はより親しみやすい歴史観光スポットとなった。福澤寛配記念文学館の庭園を見ながら坂を登ると、懐古という福井市内を一望できる小路で遊ぼう。昔ながらの石段で白山の麓を歩くと、さながら

愛宕坂を登り、さらた少く行くといふ福井藩社で着く。ゆっくろ歩いて汗道10分くらいだろうか。あくたけでも気分をリフレッシュできる愛宕坂である。



福井市福澤寛配記念文学館。公園内に福井藩史の歴史ゾーンと名称けられた。



福井城跡と回遊式庭園によって、江戸中期を代表する名園の一つといわれた善徳館庭園。R067(1982)年に国の名園に指定。

身近にある史跡の数々 藩政時代の歴史が息づく城下町

福井城の礎となった 北庄城

最後に北の庄城は公園を訪ねた。今回訪ねた中では唯一、福井藩政時代以前の史跡である。

ロケーションとしてはビルの谷間という場所がびっくり。しかし、発掘調査により明らかになった、北庄城が

よび福井城の礎と石垣をそのままだに残すなど、一見の価値がある。

北庄城の石垣は一帯下の根石を残すのみだが、これは新緑が新たな北庄城後の福井藩の歴史をあらわしている。訪れたからには、

この地が現在の福井市の出発点であったかと思つて、何となく感慨深い。

INFORMATION

福井市愛宕坂茶室道楽館



一帯竹藪が茶室の庭園に上り、江戸時代の茶の湯、福井藩主松平家の茶室など、あつたコーナーで福井市の茶室の歴史を紹介。茶室も併設している。

福井市福澤寛配記念文学館



福井城下出身で俳人、国文学者・福澤寛配の生涯・作品を展示する文学館。「読書時」会館などの書架がほか、展示場が併設する企画展がある。